

香取
遺産

vol.199 大根志ほかへ遺跡



▲遺跡全景空中写真(南側から)



▲石器の出土状況

大根志ほかへ遺跡は、大根に所在します。遺跡は南北約170m、東西は最大約120mの範囲です。南側と北側が広く、その間がややくびれる標高約37mの台地上に位置しています。

平成26年に発掘調査を実施し、たてあな竪穴住居跡13軒や炉跡59基など多くの遺構が見つかりました。住居跡などから出土した土器は、しほくろしき子母口式土器と呼ばれる縄文時代早期のもので、このことから大根志ほかへ遺跡が、この時期の集落跡であることが分かります。

住居跡や炉跡は、南側と北側のやや広い平坦部から見つかりましたが、くびれ部では確認できなかったため、南北2カ所に離れて集落が営まれていたようです。

南側の集落跡では、南東の一面に住居跡がまとまっており、南西の範囲に煮炊き用と思われる炉跡が集中しています。その中間部分からは、石器、主に石鏃せきやぶくを製作していた跡が見つかりました。また、粘土を採掘した跡もありました。粘土は、土器を作るためとも考えられますが、土器を焼いた跡は確認できませんでした。

北側の集落跡は、中央部が遺構のない空白部で、それを取り囲むように住居跡や炉跡が築かれていました。中央の空白部は広場のよう利用されていたと思われるです。

このような遺構の分布から、居住、調理、石器製作などの作業、広場など空間を区別して集落が営まれていたことがうかがえます。縄文時代早期の集落の形態を知ることが出来る良好な遺跡といえるでしょう。

発掘調査報告書は「千葉県香取市 大根志ほかへ遺跡」として平成28年に刊行されています。市の図書館で閲覧できますので、ぜひご覧ください。